

◎ 安城市（18万人）地震被害想定と救助力

被害想定		救助力	
建物全壊	2300棟	消防	113人
焼失	2110棟	消防車	11台
死者	40人	救急車	5台
重傷者	16人	救助車	1台
中等傷	2000人	救護所	5ヶ所

災害拠点病院

安城更正病院	723床	医師	225人
八千代病院	420床	医師	53人
医師会員	185人		

要約

- ・災害の急性期には命が一番大事な時期がある。
- ・県内はどこも地元の消防や医療で対応できない人的被害が出る。
- ・地域により被害の種類・程度は異なる
- ・県内同士の支援はありえない。
- ・外からの支援は24時間は来ない。
勿論、市民も企業も。
であれば、地域の総力を上げて地域を守ろう
- ・防災の基本は、おらが町を守ること。

左は、南海トラフの災害予想先進地、静岡の先生が愛知県資料から纏めた安城市の被災者と救助の想定シート。阪神淡路大震災は早朝でした。あちこちで火の手が上がるシーン、当地でも発生し得るのです。救助を求める声に対して、消防車や救急車の数は限られています。

安城市は、碧海台地と言われる比較的地盤の安定した台地に立地しているとはいえ、地震の揺れに対して昭和56年以降の耐震基準を満たした建物が、どの程度耐え得るか、誰も予想できません。地耐力も地区で異なります。そして木造・防火造が多く残る当地区です。いざ被災した時、絶対死なないこと、ケガをしないことが大切。その為には建物の耐震診断を受けて基準を満たしておくこと、部屋の中での家具の固定やレイアウトを工夫すること。生き残ったら隣近所と協力して地域を守る。頼りになるのは、地元しかないのです。

下の記事『AED 救命救急講習会』での話。

被災時、救急隊員は『意識のない人にはAEDを使用しない。救命処置に関わる人数を割く余裕はない』意識不明者はトリアージで黒(死)を宣言することのこと。

非常時は非情なのです。絶対ケガをしない事が大切。

◎ ルールとマナーを守って自転車運転

改正道路交通法で、自転車の取り締まりが6月から厳しくなりました。傘さしやスマートフォン操作での片手運転、信号無視、飲酒運転など14項目の危険行為を、3年間で2回繰り返した運転者(14歳以上)には安全講習の受講義務付け、これを受けなければ5万円以下の罰金が科せられることになりました。



危険運転は、都市部の話だけではありません。区画整理で道路整備が進んだ当地でも、歩道内のスピード走行や出会いがしらのニアミスなど、危険な場面に出くわすことがあります。中学生以上の大人が模範を示して事故のない、安全な町にしたいものです。

ルールとマナー、安城市ではマナー条例が秋から本格運用します。人の往来が多い新安城駅の南北ロータリーでは特に注意しましょう。

◎お知らせ

- ・ノラ猫には、絶対餌をやらないでください。
- ・庭で蚊を飼っている方、二兼機を貸出しています。薬品、燃料つき。ボンフランもさしあげています。

◎ 8月の予定

8月	7~9日〔金~日〕	子ども会七夕かざり
	7日〔金〕	子ども会、運動会準備会
	10~14日〔月~金〕	事務所益休み
	13・14日〔木・金〕	盆踊り〔北小〕
	29日〔土〕	組長・老人会、運動会準備会

◎ 『AED 普通救命講習会』

7月5日(日)午前 今村公会堂 受講者21名

- ・横たわっている人を発見したら、まず周囲の安全を確認。本人の意識を確認する。
 - ・意識がなければ、周りの人・協力者を探す。救急車を呼んでもらう人、AEDを探して持ってきてもらう人、それぞれ個別に依頼する。
 - ・横たわっている人の呼吸を確認。なければ、早々に胸骨圧迫を開始。物理的な心臓マッサージで全身への血流を促す。場合によっては人工呼吸を施す。
 - ・AEDの到着を待って、装着。その間も胸骨圧迫を続ける。あとは、AEDの音声ガイダンスに従う。
 - ・AED自体が、2分毎に通電可否を判断します。AEDを装着することから全てが始まるのです。
 - ・救急車到着まで通報から約8分(全国平均)。それまでは周りの人と協力して交代で救命処置を続ける。救急隊員にはAEDの回数や経過を報告する。
- 今年を受講者の内、以前に身につけた技術確認をするためか、約半数近くの方が『リピーター』でした。一分一秒を争う時、家族の人命救助に関われるのか・何もできなくて手を拱く(こまねく)のか。あなた次第。



◎ 子ども会の資源回収 8月の予定〔収集順〕

わかば	8月15日〔土〕
松	8月22日〔土〕
星の子	8月29日〔土〕
わかば	8月29日〔土〕
あすなろ・桜	次回に実施

子ども会の活動資金にご協力を